

JAXA の向井室長が資料 21-2 (ISS 利用実験・国際公募) を 10 分弱で説明した後、25 分を越える質疑応答があった。(ISS の国際公募枠と云うのは、参加各国が実験装置や宇宙飛行士の時間など全てのリソースを提供し合い、其の実験機会の国際的に公募する仕組みの様である。過去の 5 回は NASA が主催して来たが、今回の第 6 回からは ESA が主催する事になった様である。日本は JEM の中でクローズ出来る実験は国内公募し、他国の提供する実験装置や他国の宇宙飛行士も巻き込んだ実験は国際公募で対応する方針を決め、21 件提出した。今回の選定の結果 5 件が通過し、1 年程掛けて実験の準備を行う。)

池上委員長: 度の実験装置も使って良いと云う事で、国際公募になってんですか？

JAXA 向井: はい、あの、エエト、「どの」と言いましても、初めにあの、此の枠組みの中で、各国がどう云う装置を、

池上委員長: ア、提供出来るかって言って？

JAXA 向井: 先ず出すかって云うのを、こう、場に出す訳です。で、そう云った場に出したものに対して、世界的にアナウンスメント・オブ・オポチュニティをやって、斯う云う装置がアベイラブルなので、あの、使ってやって下さいと。でまあ、勿論其れを殆ど其のものを使うのですが、物によっては新たに開発しなければいけないものとか、其処にリストにされてないものもあるので、其処ら辺はフィージビリティだとか、そう云ったものを考えながら、国際宇宙機関の中で調整しながらやって行ってます。

池上委員長: そうすと、日本の「きぼう」の装置を使う場合は、此れやっぱり、日本側で以て最終的には枠を取るなり、或いは、出来る出来ないと云う事を言う事になるんですか？

JAXA 向井: エエト、そうですね、あの、装置を使わせる場合にはそうなりますし、あとは装置だけではなくて、リソースと云うと乗組員の来る一リソースですとか、あと、場所の問題ですとか、例えばあの、今回最高点を取ってる、日本の人工重力を使った研究などは非常に大掛りなので、此れあの国際機関、あの 10ヶ国位入ってるんですネ、でホントにあの物凄い国際的なテーマで、で、此れは日本の研究テーマですけども、其処で使う自転車の付いた人工重力の付いたものはヨーロッパが開発して、そして、アメリカの宇宙ステーションの場所に置いて、アメリカが運用して、そして日本は其の装置を HTV で打上げると云う様な枠組みでないと出来ない位のもんです。ですから、其処含めて、今後一年間、あの、次の一年で、各国がそう云ったリソースが実際に出せるかどうか、あとその、出した後のサイエンス・リターンはどの国がどの位取るかと云う事を調整して行きます。

池上委員長: そうすとアレ、国内公募枠との関係はどうなってるんですか？

JAXA 向井: あの、国内公募枠はあの一、此れの 1 頁目にも少し簡単に有るんですが、国内公募枠は人対象研究ではなくて、あの、「きぼう」の中に在る装置を日本の人が使いたい場合だけに限って行ってます。で、日本人でも、諸外国の装置を使いたい場合、或いは人対象の研究をしたい場合は、国

際公募の枠で出して頂いていると。ですから、第2期の後期利用に関しては、今回の国内公募と国際公募、両方を併せて、あの一、「きぼう」を使った日本の実験の数って云う事になります。

池上委員長:で、因みに、外国の提案てのはどの位あって、どう云う様な国から主に上がって来てるんですか。

JAXA 向井:エエトですネ、カナダからは7提案あって、5つ入ってます。ヨーロッパはもう、ヨーロッパ、此れあの自分のところでキュアリング(?)やってる位ですから気合入ってまして、108提案があって48と、で、日本は21テーマで5、だから24%ですネ。あの一、ヨーロッパは採択率44%、カナダは7テーマで5だから71%位。NASAは今回は、非常に**日本と反対の事をやりまして、NASAはアメリカ国内公募をNIHと一緒に人対象研究¹をやっています。**で、人対象以外のものを国際公募枠に出してんですネ。ですからNASAは11テーマ国際公募枠に出してまして、ま、其の内8テーマ選ばれてますから73%と云う事で、ま、矢張りあの一、採択率から行くと日本は24%、応募の数も少ないですし、採択の数も少ないですが、前は1題しか取れてませんから、それに比べると今回5題

¹ 池上委員長が特に気にしている、「オバマ大統領がISSをナショナルラボと位置付ける。」事に関し、其れは人対象の軌道上研究を重視している事だと分かる。つまり、火星に人を向かわせる事を急ぐのではなく、其処で起こるだろう様々な問題をISSを利用して予め抽出する事に努力を集中させると云う意味で、バイオテクノロジーや材料製造に気持は向かってない事が分かる。

入ってます。

青江:シュクリツロウ(?)が良く解らないんですがネエ、此の国際公募枠で採択されたら何が良いかと云うと、他国のリソースを使う事が出来る。此れだけ?

JAXA 向井:エエトですネエ、そうですネ。あの、他国のリソースって云うか、装置、其れと飛行士、そう云ったものが使えると云う事と、国際医学になるので、ま、例えば1+1が必ずしも2じゃなくて3位になってしまう...

青江:其れは何ですか。

JAXA 向井:エエト、例えば、うちが1時間で一つの研究をやるうとしていたものが、同じ様な研究をアメリカがやるうとしてた時には、其処の1と1の研究のリソースを合せてしまうと30分で出来てしまうものもあると。そうすと2回分出来る形になると。

青江:エエト、データが、まあ、エエト、沢山取れる。

JAXA 向井:はい、そうです。

青江:それで...

JAXA 向井:それと、数が早く取れる。例えば日本の飛行士だけだと1年半に1人しか飛ばないですから、10例取るとなると10年掛っても取れない。

青江:ま、其れも含めて、要は他国のリソースをかなり活用する事が出来ると云う事で、費用...此れ採択されたからと云って、費用は、此れは自分の処で、基本的には出すと?

JAXA 向井:あの一、装置は、元々其処の国際的に出した装置は其の各国が持つてる、開発した装置ですし、其の、夫々の国

の研究者にファンドを出してやる場合には夫々の国が出しますので、...

青江:例えばネ、今度採択されるじゃないですか。エエト、此のナンバー5のネ、エエト...

JAXA 向井:はい、人工重力、はい。10ヶ国やってるやつですネ、はい。

青江:其の時の費用負担は、エエト此の岩瀬さんのやろうとしてる事の費用負担は、全面的にこれは日本が負担をしとる?

JAXA 向井:いえ、エエト、ですからあの、其処を此れから調整するんですが、エエト先ずあの、費用負担を考える時に、純粋に研究者に対してのグラントの負担と、其れと装置の開発ですとか、其れを打上げて軌道上で運用するって云う、其の処の、先ず、大きく分ける事が出来るんですが、先ず、研究者に関してのグラントは各国の共同研究者で入ってる人は夫々の国が其の人達の研究費を...

青江:どの国で?

JAXA 向井:で、装置とか、そう云ったものに関しては、先程一寸私が申し上げたみたいに、使う装置はヨーロッパが、此れは今作ろうとしていて、そう云ったものを日本の HTV で打上げて、で、其れを置く場所が、かなり大掛りなので場所が無いのでアメリカの場所を使い、アメリカが運用の費用は全部出してやりますと。ですから、其処ら辺はどの位の費用負担をしたかによって、あの、此れ、主研究者は日本人なんですが、その一、此の研究の切り分けで、誰が主論文を書くかとか、其の後其の装置が、此の研究が終わった後に実様に使い

たい場合に、誰が一番実用権を持ってるかってのは、その、装置開発とか其処で出して来たお金とかで...

青江:費用の度合いで、エー、分担をしようじゃないかと。成果を分けようじゃないかと云う事に...

JAXA 向井:する事になると思います。

青江:未だキチンと決まってないけれども、多分そうなるであろうと。

JAXA 向井:はい。基本的にはそうですネ、お金出した所が強いからです。

青江:フーン。

JAXA 向井:で、此れはあの一、ホントにあの、テーマとしてサイエンス、凄いトップを取っちゃったんですけれども、ま、NASA にしても、ヨーロッパにしても、出来ることであれば研究者が、自分のところが主だったらって云う位のテーマだったんですネ。たまたま日本人が主になっちゃってるので、此の日本人をこう奉る、あの、上に出さなきゃいけないですけれども、出来れば、ホントだったら NASA の人だとか、ヨーロッパの人が主であればもっと簡単に出来ちゃうのになって云う位、テーマとしては...あの、特に今、アメリカ、2020 年迄予算が付いてますし、斯う云うヒューマンリサーチでお金 1.5 倍位上がってますから、そう云う意味だと此のテーマは...此れで研究やった後は軌道上に此の装置を置いて、実際のあの、飛行士の運用に使ってこうしてます。

青江:そうすとあの、人対象の、エエト、研究は、此の国際公募研究でと云う、今、振り分けになって居ると云うのは此れはたま

たま、まあ、所謂JAXAの、一種の運用の仕方の問題ですネ、エエト、人対象の研究もエエト、国際公募で以てじゃなくて、エエト、日本固有のとも言いましょうかネ、エエト、JAXAの費用の下に日本固有のテーマとして「きぼう」で以て何かをすると云う事だって、あっても良い²訳ですネ。

JAXA 向井: はい、あの一、

青江: たまたま、今はそうしてないと云うだけの話?

JAXA 向井: いや、あの、あっても良いのですが、其れはあのシャトル時代は実際はそう云う事になっていて、その、自分の国の処でやってしまうと云う風に、斯う云う風に閉じてしまうと、じゃあ、被検者は日本の飛行士だけで良いんですネって云う話になる訳ですネ。

青江: 其れはあの一、データが少なくなると云うですネ、マイナス面をですネ、受け入れるとすればですネ、其れはもう「きぼう」の柵内でと言うか、日本の「きぼう」の利用の枠内ですネ、人対象研究と云うものをまあ、一種...

JAXA 向井: 出来ます。

青江: 日本だけでクローズって形でやろうと思えば、其れは其れで...

² 研究を実施するのに必要な費用は、ISS 及び搭載されて居る装置を使う費用(利用料)と、其の実験固有の費用(地上との対比実験・資料や消耗品の準備・予備実験の様な事前準備等)とあるが、其の前者の費用がどの国の負担で当初発生するかの回答を得ただけで、実験時の負担について回答が無いまま次の質問に移ってしまった。

JAXA 向井: 出来ます、はい。

青江: 何ら問題無く出来ると思っとけば良い訳ですネ。

JAXA 向井: ええ、あの、ですけど、その...

青江: たまたま、今、そうはしてないと云うだけの話ですネ。

JAXA 向井: エエト、其れをしない方が得だからです。NASA は今回、其れをしてないのは、NASA の飛行士の数が多いですから、その、諸外国に斯う云った事を提示しなくても、NASA の国内公募の枠だけでやっても、アメリカの飛行士が数多く行きますから、出来る訳ですネ。ですから、此の国際公募と云うのは、表裏一体、非常に危険、あの、アブ...良い時もあるし悪い時もあるのは、皆がリソースを持ち寄る訳ですけども、其の持ち寄ったリソースを他の国が逆に一杯使ってしまうと、優秀な人達がドンドン出て来れば、あの一、必ずしも全部日本が使えない場合も出て来ると。だから、そう云う意味では、競争であり、競合であり、協力になる訳です。

青江: どうしても此れで、日本国内で斯うして、とやりたい時には、やろうと思えば出来ると云う事ですヨネ、人対象と云う事であつてもネ。其の代わりデータはムニャムニャ。

JAXA 向井: はい。

池上委員長: じゃあ、其れに関連しまして、ロシアは今回は...あのロシアはロシアで勝手になって言っちゃおかしいけど、自分でやっていますネ。ロシアは一応関係ない訳ですか...関係ないって言うか、あの、例えばロシアの装置を使うって云う様な提案は今回はつい省になってない訳ですヨネ。

JAXA 向井: エエト、ロシアは元々あの、此処の、宇宙ステーショ

ンに入った時点で、あの、自分の処のあの、モジュールの所とあの、ロシア以外の所と、別にしてるんですネ。で、例えばあの、今はお金が随分出て来たからまだ良いんですが、ロシアの飛行士を被験者に使う場合には、一人当たり幾らって云う被験者代を払わなきゃいけないとか、そう云ったお金の換算されて来てしまうので、で、ロシア以外の国の国際公募の枠でやってる時には、そう云う、一人やったから幾ら払わなきゃいけないって、そう云うせせこましい事は言ってないんです。ただあの、私あの、丁度2週間くらい前に、インタナショナル・スペース・メディスン・サミットって云うのがアメリカでやってまして、其処でロシアも全部来て、今後宇宙医学って云うのを世界的にどう云う風にしようかって云うのを NASA がやってた会なんですネ、其処でロシアも、もう、此の枠組みにそろそろ入って来て、一緒にやってくって云うのを少しずつ考え始めているみたいです。

池上委員長:ハア。後はその、アメリカの方ですが、今回あの、ナショナルラボとして積極的に使おうって云う事が再確認された訳ですネ。其れでやっぱり、随分、アメリカは変わって来てるんですか。

JAXA 向井:変わってます。

池上委員長:NIHとか、そう云ったところが積極的にサポートする。

JAXA 向井:これはあのー、エエト、たまたまあの、日本が今度理研を入れて、あのー、所謂、此処の研究者を使わせるって云う様な使い方の規模よりかは、組織に使って頂くって云う規模の方が良いと云う風にしますヨネエ。で、同じ様な構図

を NASA もやってまして、NASA は NIH を使ってやってんですネ。で、NIH が今回も完全に入って来てますが、日本とアメリカの大きな違いは、NASA 自身、NIH 自身もグラントを出せる機関³なんですネ。ですから、彼等は軌道上の運用だとか、装置開発と云う宇宙の斯う云った記述開発も出来ますけれども、研究者にグラントを出して、其の研究を育むって云う事が出来る。日本の JAXA は装置開発ですとか軌道上の支援は出来ても、研究者自身の支援て云うのは JSPS みたいな学術振興会の方へ一緒に入って来ない限りは出来なくて、其のファンドを持ってるメカニズムが無い限りは、理研と JAXA がやったとしても、中々難しい。で、此れあの、ヨーロッパも同じ様な、そう云うファンドを出せる、ESA 自身も出せますし、ヨーロッパ・サイエンス・ファンデーションで云う、ピア・レビューやったグループも出せますから、研究者も育成出来る、そして軌道上の開発も全部出来ます。

³ ISS 特別部会でも同じ点で熱弁を振るわれたのだが、向井室長はファンドが無い事が問題の根源だと考えていらっしゃる。しかし、プレス等で非難を受けているのは、注ぎ込んだ開発費に比べて宇宙実験で得られた成果が乏しいと云う事で、ファンドの問題を解決しても何の効果も期待出来ない。問題をすり替えようと云う意図などは何も無く、唯只管(ひたすら)、ご自身の専門分野の研究を前進させたい一念で発言されて居るのは理解出来る。しかし、ご自身が JAXA 内に研究者として所属しているので、他の宇宙実験よりも有利な立場である事をお気付きだろうか。また、宇宙開発委員は全体的な宇宙政策を考えるととは思われないのだろうか。

青江: 此の際に一寸教えて頂きたいんですがネエ、NIH だとですネエ、これは例えば ISS 用とでも言いましょうかネ、こう... 一種チャンとミシン目を入れたものを持つと云う理解で良いんですか。

JAXA 向井: あのー、其の考えが新しく出て来てまして、NIH と NASA が一番初めにやり始めた 1998 年のニューロ・ラボと云う処で、NASA が今迄やっていたレベルが低いって云う風に、外の研究者から言われて来て、それじゃ NIH にピア・レビューやって貰いましょうと。その時にはグラントを NASA が持ってたんです。で、今回、あの、NASA は国内公募で人対象やってまして、此の相手先が NIH。で、こないだ 2 週間目にはそのー、インタナショナル・スペース・メディスン・サミットのところに NIH も来ていて、で、彼等も真剣に ISS を使って出してくって云う時代、あの、もうお金が付いてますから、で、NIH が入って来て今度のやり方はピア・レビューだけではなくて、NIH 自体が宇宙用の予算を持ってるそうです。

青江: 宇宙用の、もうミシン目の入った予算を持ってるって云う意味? あの、こうではない訳ですネ、例えば、何とかの筋肉に関する研究と云う領域があって、其れに対するファンディングがあってですネエ、其処を地上でやるやつも宇宙でやるやつも全部其処へ行って、其れでピア・レビューを経てですネ、たまたま宇宙が選ばれたら、其れをこう、ファンディングするんじゃないかと、別に宇宙用と言って、別に...

JAXA 向井: はい。其れが今度新しく NIH と NASA が枠組みを決めて、やる枠組みらしいです。其れ、私もあの、2 週間前にヒ

ューストンに行って、新しく得た情報⁴ですが。

青江: 成程。そうしたらネエ、例えば今挙げた筋肉の研究、地上でやるやつとですネ、その、宇宙でやるやつと、斯うやって見てサイエンス・バリューがですネ、どっちが高いかって云った時、こっちが低くてもこっち行く訳ネ。採用される訳ですネエ。

JAXA 向井: エエト、其処はあの、一寸 NIH に其処まで細かく聞いてないですけども、

青江: 基本的にはそう云う事になりますネ。

JAXA 向井: そうですネ、あの、テーマとしては一つの枠組みの中で、あの、宇宙と云う処で...

青江: 宇宙用で取ってるんでしょう。

JAXA 向井: AO を出してます。アナウンスメント・オブ・オポチュニティを出してますから。

青江: ネエ。其れは不公平⁵だよネ。

JAXA 向井: エエト、そうですネエ...

⁴ 全く新しい予算が NIH と NASA に割り当てられたのではない様に見える。コンステレーション計画が、当面中止され、其処で計画されて居た宇宙医学に関する研究の予算を、ISS を利用した宇宙医学の予算に移動させた様に想像できる。つまり、火星をターゲットにしなくても、ISS 軌道で十分に実験機会が得られるし、惑星軌道に飛び出す有人輸送機の開発を急ぐ必要も無くなるのである。

⁵ アメリカ政府が宇宙医学を重視している事は、探査計画の変更によって何も変わらなかったと云う事を示している様だ。

青江:不公平ですヨ、此れは。ネエ。

JAXA 向井:いや、一寸、NIH にもう一回キチンと聞かないと、不公平にやってるかどうか、一寸解らないですけども、ウン。

池上委員長:いや、でも、NIH はだって、医療関係とか、バイオ関係に金を...

青江:いや、だから、地上と宇宙がフラットに競争して、サイエンス・バリューの高いものがチャンと選ばれるんなら、其れは宜しいと思いますけど⁶ネ。

JAXA 向井:エエト、其れが地上のレベルの研究はそうですけども、NIH と NASA のやり方は、ISS を国立研究所って云う風に位置付けたので、此処の ISS を使ってやると云う研究となると、其れはもう軌道に出してる研究しか、あの、出して来ないですから。

青江:ハァー。だから、組織が出来りゃあお金が付くと云う理屈と同じですネ。

JAAX 向井:エエト、組織が出来ればと云うかあの...

池上委員長:いやいや、全然違いますヨ。

井上:いや、其れは、元々 NASA だって、その、地上...NASA と NSF が地上の天文学とスペースの天文学って云うのを分けてやってる時に、しかし、其の後ではアカデミが、その、全体を見た長期的なものを考えてるとか、そう云う体制と一緒に、

⁶ 「宇宙実験に依る成果を地上の医療に活かそう。」と云う考えがあれば其の様な事になるが、「宇宙で生活する為の医療技術を開発しよう。」と云う事なら、其処には地上実験と競争する様な要素は何もないのだろう。公平とか不公平の話ではないと思う。

アメリカはチャンとあるんですネ。だから、多分、同じ事が行われて、今の様な事が何かの格好で調整されるんだと思うんですけど。と云う事になってるんだと思います。

JAXA 向井:あの、NSF が矢張りあの、アメリカ、関係していて、其の内のヒューマン・リサーチ・プログラムが NIH と一緒になってるんですネ。やっぱあの、ナショナル・インスティテュート・オブ・ヘルスと、NASA の中のヒューマン・リサーチ・プログラムって云うのが一緒になって、宇宙ステーションを国立研究所⁷として使う場合の研究テーマを募集しますって云う、そう云う枠組みでやったみたいですよ。

池上委員長:そうすとアレですか、他の分野は NSF とかあの、DARPA もやっぱファンディングする用意があるんですか。

JAXA 向井:一寸、私はあの...其処は先生の方が NSF だと...

井上:いや、その、今回あの、ナショナル・ラボって云う、言い方をした、ナショナル・ラボって定義は、当にそう云う事をやりますと云う定義にしましょうって云う考え方だと思います。

池上委員長:いや、だって、そうでしょうネ。

井上:そう云う事があると思います。

池上委員長:日本も、今もネ、その ISS 特別部会でコスト・パフォ

⁷ 誰もが此のオバマ大統領の発言で初めて聞いた「国立研究所」に拘り過ぎている様だ。国立研究所だから活用する為の予算を付けると云う論理ではなく、宇宙空間で人間が生活を続ける上での問題点と対策に関する研究に予算を付けると云う論理だと思う。あくまで、最終ゴールは火星であり、少し余計に時間を掛けても、年度予算を絞って、着実に前進すると云う意思表示だろう。

ーマンスを考える時に、あの、ISS 其の物を要するに、ツールと分けて考えましょうって話になってるけれど、問題はその、研究費をどっから持って来るかって云う話で、現状ですと余り、あの一、例えば NEDO とかああ云った処は積極的じゃあないですヨネ。多分、其の辺はやっぱり変えてかないといけないと云う風に思うムニャムニャ。

JAXA 向井:あの、エエト、此処ら辺はやっぱりあの、エエト、一寸、**日本の中の縦割りの中に入ってしまった**⁸て、で、これは一寸斯う云う事言えるかどうか、あの、文部科学省の中も嘗ての...旧科技庁系が ISS のものづくりだとかロケットとかエンジニアリングやっていて、研究サポートと云うと旧文部省がやってる訳ですヨネエ。で、JSPS も日本の学術振興も文部省傘下に入っていて、で、其れがあの、実際は省庁間が斯う、マージしたって言ってもマージしてなくて、ただスーパーインポーズしてる、斯う重なってるだけなので、其の縦割り構造が JAXA の中にも...あの、なっていて、あの、科学本部、相模原のグループはその研究のグラントは出せるけれども、

⁸ 斯う云う言葉を使うと恰も問題提起した気になれる様だ。実際は、旧 ISAS と旧 NASDA が一つの組織になったものの、其れ以前に定めた諸方式の相違点が、未だに融合し切れないと云うだけの話である。どちらにも良い処と悪い処が同居している為に、片方の方式を選定出来ないのではなからうか。向井室長ご自身が、旧 NASDA 系に稀な研究者としての地位を得ていらっしゃるのだから、自ら切り開けば良い事であって、書悪弊を数え上げる必要はないのではないか。

ISS みたいなそう云う処には興味ないと。で、一方 ISS を作ってるグループは物作りは出来る、ロケットは出来る、支援は出来るけれども、で、実際に其処にホントのユーザである研究者の、あの一、...を育むだけの土壌が作れない。だから丁度、そう云ったものが斯う、上手くなんない限りは、もう、10年やっても 20 年やっても、NASA やヨーロッパみたいな、あの一...もう、ヨーロッパは 8.3%しか利用権なくても、あの、此の、実験数なんか物凄い数やってますし、出てる論文数なんか、日本と桁違いに出てますから、もう此の儘で行けば完全に...あんまり...科学利用、所謂、利用しても中々結果は出て来ないと思います。其処を変えない限りは。

池上委員長:いや、其れは又、特別部会で色々議論して下さい。何れにしても、あの、研究者が駄目だと云う話ではなくて、

JAXA 向井:そうです、はい。

池上委員長:**金だけの話だと云うことであれば、未だ希望が**⁹ありますから。

JAXA 向井:私は、あの、日本研究者、特に此の、あの、エエト、研究企画力もあると思うんですネ。此れあの、一か八か此の人工重力が出たんだと思いますネ、あの、ホントにあの、科学評価は九十何点、フィージビリティ評価は四十何点位の、

⁹ ISS 計画の遂行責任が JAXA にあり、其の計画に JEM や HTV を投入する為の開発資金を得ていた。整備する以上其れらが活用されるのが好ましいので、呼び水の資金も準備して、研究者を糾合したのである。其の、呼び水が少ない事が問題だと考えているのだろうか。時として主張が変わるので掴み難い。

四十何点てのはもう、此れあの、こんだだけ大掛かりで国際的に入ってるのは面倒臭いから落としちゃうかと云う位のもので、で、JAXA も一寸尻込みしてたんですけど、諸外国はもう、千秋どうしてもアレ落とさないで欲しいと、JAXA で何とか拾ってくれば、あとは NASA、ESA がやるからって云う位、テーマとしては良いんですヨネ。だからあの、研究者の資質は、私はあると思うんですが、そう云う人達を、若手の研究者を育む基盤を作れば、私は、日本は勝てると思うんですけど、色々。...はい。すいません、長く時間取りました。

井上:一つだけ、あの、当に今仰った、ESA が主管して評価を、審査を行ったって、今の様なお話、その、夫々の装置を分担してる部分が或る種の判断をしなきゃいけない部分とか、物凄く選定が大変だろうと思うんですけど、実際はそう云う、ESA がたまたま、何か或る種の核になっただけで、各機関なり各国からの代表なりが決めると云うプロセスなんですネ。

JAXA 向井:いえ、あのー、科学評価はヨーロピアン・サイエンス・ファンデーションがもう、エエト、色んな分野の科学者のデータベース持ってまして、で、半分を宇宙関係の科学者、半分は全く関係ない人を入れたパネルを彼等が作って、で、そう云うパネルの中に日本からもヨーロッパが選んだパネル、選定者で入ってるものもあります。

井上:先程、サイエンスが九十何点で、その、フィージビリティは四十何点。其のフィージビリティを其処が判断出来ると思えないので、やっぱり其処は何か二つ...

JAXA 向井:そうです。あの、先ず科学評価をやって、科学がもう

駄目なものはどうやってももう駄目なんですネ。だから、初めにヨーロッパのスタンダードで科学に良いものだけを選んで、其の後にテクニカル・フィージビリティは今度エージェンシー、各宇宙機関が入って来て、これは良いけれども出来るの出来ないのと云う話をして、それから今度プログラマティックにあの、これはひじうに科学も良い、フィージビリティもあるけれどもうちのプログラムに合っていないって云う感じで、その、段々絞って、落とす。でも、先ずは科学が良くなければもう通らないって云う世界です。

井上:それから、もう一つ、今の科学って云うのもあの、随分、どう云う点にウェイトを置くかって云うのは結構評価が変わる様な気がするんですけども、日本から出てく時に其の、或る種の予選みたいなの、或る種の、そう云う種類の日本としての考え方みたいなのを経て、出てってるもんなんですか。それとも全く向う任せ？

JAXA 向井:其れはあのー、夫々のエージェンシーが少し色を付ける事は出来ます。例えば、エエトそのー、骨の対策法に対して、うちは非常に欲しいので、そう云った対策法が欲しいとか、或いは何かのメカニズム、心臓循環系がやりたいとか、そう云う各国が少し色付けた形で出す事は出来ますが、あのー、日本の中でセレクションして出すと云う事はしてません¹⁰。

¹⁰ 良く解らない回答だが、リソースを提供する時に期待する研究テーマの方向性を併せて提示する事が出来るって云う事なのか。まあ、当然過ぎる位に当然な話ではあるが。

井上:で、逆に、結果は、その、非常にあの、リーズナブルなものだったと思っておられる？

JAXA 向井:エエトですネエ、あの、矢張り結果はリーズナブルと言うか、そうですネ、ホントだったらもう少し日本が入っても良いと思いますが、多分これはあの、斯う云った形でドンドンやってって、次の公募辺りでは、もっとレベルが高くなって、って云うか、出して行けると思います¹¹。一つあの、フォーマットとかそういうものが、やっぱり書き慣れてないせいもあって、ま、やっぱりヨーロッパは、自国の処でやると、通常の科研費に出すのと同じ様なものの訳ですネ、ヨーロッパの連中にして見れば、だから書き易いですし、あのー、まあ、そう云う意味でもヨーロッパは、その、ESA なんかも今迄 NASA が主導権持ってたものを、やっぱり自分の処で持てるものは持

ってこうと云う風にやったんだと思って居ります。

池上委員長:ア、是非日本も優秀なネ、研究者が此れへ応募し様と云う風な流れが出来ると良いですネ。より優秀な、今も優秀だから、より優秀なと云う感じ。じゃあどうも有難う御座いました。

JAXA 向井:どうも長い事有難う御座いました。

¹¹ 井上委員の質問は、「正当な扱いを受けたか？」と言う意味の様に思えるが、向井室長の回答は結果だけについて述べている様に感じる。向井室長は日本の宇宙医学の振興に関心があり、多分、応募件数採択件数共に少ない事を憂えているのだろう。井上委員が心配した様な日本に対する不当な扱いは無いのだろう。そうであれば、向井室長が望む姿を実現させる方法は簡単明瞭である。JAXA が新しい組織を作って其処の室長に据えてくれたのである。向井室長自身が日本中の大学医学部や病院を回って、宇宙医学の研究者に挑戦する様に、若い人達を鼓舞するしかない。但し、余り大勢集めても、食べさせて行けるだけの資金を確保しなければならない。其れには天井が必ずあるので、JAXA の経営者と良く相談されるのが良いのだろう。